

新たな節目の年を迎えて

令和二年一月 小野町長 大和田 昭



輝かしい新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

町民の皆さまには、ご家族おそろいで令和2年の初春をお迎えのことと存じます。

昨年を振り返りますと、全国の広範囲で自然災害により甚大な被害が発生しており、本町におきましても台風19号によりこれまでに経験したことのない記録的な大雨に伴い町内各地区で床上・床下浸水、土砂災害等の被害が発生したところで、被災された町民の皆さまに對しまして、心よりお見舞いを申し上げます。被災された方々

が1日も早く元の生活を取り戻していただけるよう、早期復旧を目指し取り組んでいるところです。

その中で、市町村対抗福島県軟式野球大会において初のベスト8に勝ち進み「八強賞」の受賞や小中学生のさまざまな分野における活躍など、町民の方々に感動を与えていただきました。今年は、更なる飛躍を期待しております。

さて、今年は新しい時代令和2年目、小野町が誕生し65年目の節目の年となります。この新たな節目を迎え、町のキャッチフレーズ「笑顔とがんばりの町」のように、平和で笑顔にあふれ、町民の皆さま一人ひとりが希望と誇りを持てる、そして、ここに住む人たちが「任んでいてよかった」「これからも住みたい」と笑顔で言っていただけ「幸せを実感できる」町を目指してまいります。これらを実現するために

は、目まぐるしく変化する社会情勢に柔軟に対応し、発想力を高めながらスピード感を持って地域課題にしっかりと向き合い、「総合計画」に示した主要プロジェクト、さらに重要課題として捉えております人口減少対策について、「創生総合戦略」や「過疎計画」に基づく事業を実施してまいります。

日本全体の「人口減少・超高齢化社会」を迎えた構造的な問題の中で、人口減少が止まらない状況でありますが、住民に最も身近な基礎自治体、そして持続可能な自治体として発展し続けるために、より質の高い、多様な行政サービスを安定的に供給できるよう職員と日々努力を重ねてまいります。さらに町民の皆さまと行政が知恵と力を合わせ、同じ目的のために共に協力して働く、協働のまちづくりを進めてまいります。

その中で、具体的には子育て

てしやすいまちづくりを第一の目標に掲げ、結婚・出産・子育ての各段階で切れ目のない質の高いサービスを提供してまいります。4月には町内4小学校が統合し「小野小学校」が開校します。教育環境の充実を図るほか、より良い幼保連携の確立のため公私連携幼保連携型認定こども園の整備、就学前の教育・保育の充実を図ってまいります。

また交通の要衝である小野IC周辺の開発、役場庁舎の整備、農林業の整備として、基盤整備、林道整備、医療と福祉の充実を図るため交通弱者支援タクシー助成、公立総合病院の充実、安定的な飲用水確保に対する支援、定住交流、商工業支援など引き続き取り組むほか、広域的な取り組みとして、こおりやま広域連携中枢都市圏での連携や交流自治体との友好関係を進めてまいります。

今年の干支は「子（ねず

み）」、子は「植物の種子が膨らみ始める時期」に例えられ、「成長・拡大」や「子孫繁栄」という意味が込められております。今年日本にとつて東京オリンピックが開催される節目の年です。本町も65年目の節目の年であり、干支の意味のごとく未来への大きな可能性を感じながら、持続・発展していけるよう、全力を傾注し町政に取り組みでまいりますので、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆さまのますますのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。年頭のあいさつとさせていただきます。

